

被災地の支援

阪神・淡路大震災、
佐用町水害での経験を活かした
東日本大震災被災地への多様な支援事業

2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。
1995年1月の阪神・淡路大震災や、2009年8月の佐用町水害における調査研究・被災地支援活動を経験した当館では、2011年4月から5月、経営戦略会議にて支援の方向性を議論し、ひとはく単館で動ける内容をはじめ、各種ネットワークでの活動も積極的に行うこととしました。主な活動は次のとおりです。また、下記の活動の他に福島県の状況を伝え支援の機運を高めるため、2012年3月から4月にかけて、いくつかのミュージアムと連携し「みんなの福島」展を開催しました。

●植物標本レスキュー

支援先・地域	陸前高田市立博物館
経緯	2011年5月2日、西日本自然史系博物館ネットワークよりひとはくへ協力依頼
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高橋、布施、山本研究員が津波によって海水を浴びた腊葉標本の塩抜き、泥落とし、乾燥作業を分担し、総括の岩手県立博物館へ返送。 ・「津波被害にあった標本を救おう」展として、2011年6月から9月にかけて、ひとはく館内で展示。 ・2011年10月にも地質標本救済事業へ研究員を派遣し、地質、古生物資料の洗浄、整理等の作業を実施。

●市民協働型の「大洗サンビーチ復興計画案」作成を支援

支援先・地域	茨城県大洗町
経緯	茨城県大洗町よりひとはくへ支援要請
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市民協働型の「大洗サンビーチ復興計画案」作成を支援。計画案を元に2011年度新しい公共支援事業(内閣府)に「やっぱり海が好き! みんなで力を合わせて環境再生」(大洗町・NPO法人海の大学・NPO法人自然環境復元協会)が採択され、本事業を支援(復興計画案更新のためのワークショップを開催、事業報告書作成)。 ・2012年度以降、ハマヒルガオ群落の再生、コアジサシの繁殖場の保全などを市民の参画と協働によって進めることとなった。



1.Kidsキャラバン(仙台七郷) 2.ルネサンス
棚倉へ出向いた「ゆめはく」 3.「津波被害に
あった標本を救おう」展

●被災地での「Kidsキャラバン」を展開

支援先・地域	青森県～福島県
経緯	ひとはく経営戦略会議での協議により実施
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年7月、仙台市科学館と共同で、仙台市沿岸部の児童館にて「Kidsキャラバン」実施。 ・これらの活動は、全国のミュージアムが連携して子どもたちの体験活動を支援する「こどもひかりプロジェクト」が生まれるきっかけとなった。

●里山の再生・活用を目指した長期的取り組み
「たなぐら里山ミュージアム」

支援先・地域	福島県棚倉町
経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・棚倉町で少年時代を過ごした奥野善彦弁護士が、町の復興支援の一環として里山の再生・活用に取り組むことを決意され、当館の岩槻邦男館長(現名誉館長)に協力を要請。
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間の準備期間の後、2013年度には植物相および植生調査。 ・2014年度には植物相の捕虫調査と昆虫相調査を行い、幼稚園への「Kidsキャラバン」を開始。 ・これらの成果をふまえ、2016年度に「たなぐら里山ミュージアム」として、今後のあり方に関して提言書を作成。

NPO法人 人と自然の会との連携

活動実績22年のNPO法人と共に
子どもの体験学習を支援する

「NPO法人 人と自然の会」(以下、人と自然の会)は1999年にNPO法人認証された団体です。ひとはくと連携し、22年間にわたり、自然環境の保全や人と自然の共生についての体験学習を支援する活動を行ってきました。「人と自然の会」とひとはくの主要な連携活動は、館内で定期的実施される「ドリームスタジオ」です。参加者は1回あたり約30名と少数ですが、その実施回数は19年間で215回に達しました。
2014年以降は、スーパードリームスタジオ(2014年・1,287人参加)、ドリームスタジオ・スペシャル(2015年・1,534人参加)、およびドリームスタジオ・フェスタ(2016年・1,382人参加)を新たな連携事業として開催しています。参加者全員にプログラムを提供するために、22年間実践してきた活動の経験とノウハウが大いに活かされました。

以上のように、「人と自然の会」は子ども向けの体験学習プログラムを1,000人単位で実践できる団体へと躍進しました。ひとはくは今後も「人と自然の会」と連携しながら、子ども



1.人と自然の会(黄色の上着)によるクラフトづくり体験 2.博物館の研究員(青色の上着)も、人と自然の会の皆さんと体験学習を実践 3.親子の参加者

の体験学習を支援する様々な活動を推進していきます。

兵庫県立有馬富士公園との連携

多彩な公園の使い方を
市民と共に考え、実践する

ひとはくは兵庫県立有馬富士公園(都市公園・三田市)を2001年の開園前から支援しています。「みんなで何でもできる公園をつくらう」これが公園の開園当初からの運営のモットーです。そのために、住民グループ自身が自立的に来園者向けプログラムを企画・運営する「夢プログラム」というしくみをつくりました。ひとはくはパークセンター(公園管理事務所)と共に、このしくみを使い、園内で様々なプログラムが実現するよう支援しています。

私たちは「ひとはくが公園を支援すること＝地域連携の一環」であると捉えています。公園では現在、20～30グループが夢プログラムとして活動中。その中には15年以上継続しているグループもあり、星の観察、虫や植物の観察、里山管理、米づくり、合唱、楽器演奏など住民の企画は多彩です。心のこもった対応ができる住民グループの存在そのものが公園の魅力になっています。

2014年度には「有馬富士公園まちづくり塾」として中瀬



1.「自然の学校」による田植え 2.「トライアングル」による合唱 3.「子育て支援グループキララ」によるエクササイズ 4.子育て支援プログラム「絵本の国」

館長を座長に全8回の講座を実施。「公園からまちづくり」をテーマに議論した結果、生物多様性・美しい景観・子育て・健康・地域観光・ビジネス・第3の空間・社会実験といった“公園からまちづくり”のキーワードを得ました。これらに優先順位をつけ、2015年度からは子育て支援に取り組んでいます。小さな子どもをもつ親子が有馬富士公園に来て楽しく遊び、同世代や多世代と交流することで「子育てが楽しい社会」の実現につながればと考えています。